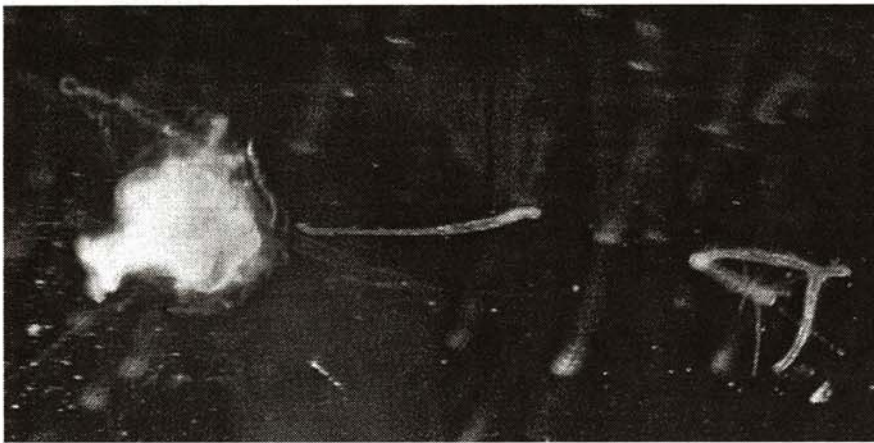


# 「口柄」退化せず若返り

京大・久保田助教 べニクラゲで新発見

退化して何度も若返る 助教(五三)がこのほど、

ことから「不老不死」と体の一部が退化しないままして知られるべニクラゲ まに若返ることを初めての若返り現象で、京都大 確認した。従来は体すべ学フィールド科学教育研 退化すると思えられ究センター瀬戸臨海実験 ており、久保田助教は所(白浜町)の久保田信 「定説を覆す発見」と話



走根(右)を出すべニクラゲの口柄(左) —京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所提供

している。

今回実験対象となったクラゲは、八月中旬に田辺市の田辺湾の海中で久保田助教が捕獲した体長約一・二五メートルのオスのべニクラゲ。衰弱しており、泳ぐことができなかった。飼育を始めるとすぐに胃や唇部の「口柄」以外の体が退化し始め、一週間後には口柄から複数の走根を出してクラゲの若いときの姿「ポリプ」への若返りが始まったという。これまでは体すべてが退化して若返るとされてきたが、今回の実験では口柄だけが退化しないまま若返った。

分断実験から、口柄部分が若返らないことは確認されていたが、久保田助教は「自然の状況で古い体(口柄)と若い体の合体が確認されたのは、世界で初めて。おそらく、口柄部は若返りに直接関係しない」と話している。